

令和元(2019)年度 基盤研究（S） 審査結果の所見

研究課題名	植物細胞の脂質分泌の鍵をにぎるバルク輸送マシナリーの分子基盤
研究代表者	矢崎 一史 (京都大学・生存圏研究所・教授) ※令和元(2019)年7月末現在
研究期間	令和元(2019)年度～令和5(2023)年度
科学研究費委員会審査・評価第二部会における所見	<p>本研究では、応募者がこれまで取り組んできたムラサキの脂溶性色素シコニンモデルとして、植物がワックス、クチンなどの脂溶性ポリマーを大量に細胞外に分泌するメカニズムの解明を目的としている。具体的には、脂質分泌マシナリーの構成メンバーを同定し、脂質輸送メカニズムの分子機構の解明を目指している。</p> <p>植物の脂溶性成分の細胞外分泌機構については未だ解明されていない。本研究では、これまでのシコニン研究によって培われた知見と実験手法に基づき研究計画が立案されており、独創的かつ先駆的な研究展開が期待される。本研究の成果は、植物の脂溶性有用物質の細胞外分泌を促進する技術開発にもつながることが期待される。</p>